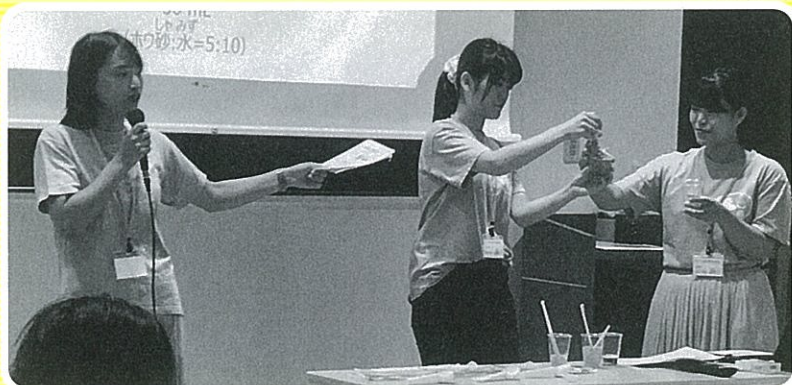


# びびっど Vivid

No.27

## 親子科学実験講座

### 『手作りスライムで大実験!!』



講師の同大学理系女子大学院生チーム IRIS（アイリス）は、現役の理系女子大学院生によるチームで、小・中・高校生に科学の楽しさを広めたり、理系をめざす女子高校生に進路について話をしたりといった活動をされています。また、同大学女性研究者支援センターと、本市の思わぬつながりを、中面でご紹介しています。

令和元(2019)年は、平成11(1999)年に、男女共同参画社会基本法が制定され、満20年となる年です。

この間、同基本法に基づく、男女共同参画基本計画や成長戦略などを通じて、性別にかかわらず、誰もがいきいきと暮らしていける社会の実現に向けた法整備や改革が進められてきました。

こうした動きを受け、女子の大学・大学院進学率が上昇した一方で、進路選択の場面では、女性の理工系への進学者が少ないなどの男女の差が見られます。

「親子科学実験講座」では、子どもたちの科学への興味や関心の芽を育み、保護者にも理系女子大学院生という身近なロールモデルに接してもらうことで、将来子どもたちの多様な進路選択が可能となるよう企画しました。

令和元年8月31日(土)、大阪府立大学女性研究者支援センターとの共催で、親子科学実験講座『手作りスライムで大実験!!』を開催しました。

子どもたちはスライムを作り、魔法の水(酢)や魔法の粉(塩)を入れると、スライムの状態が変わっていく不思議を体感しました。



## CONTENTS

### 特集 「理系分野に女性が 少ないのはなぜ？」

- ・親子科学実験講座 報告
- ・富田林市男女共同参画リーダー養成講座修了生 巽真理子さんインタビュー

富田林市





# 理系分野に女性が少ないのはなぜ？



日本での女性研究者や技術者は緩やかな増加傾向にあるものの、諸外国の30～40%程度と比べると16.2%と未だ低い状況が続いています。

さらに、理工系に学ぶ女子大学生の比率は理学部で27.8%、工学部で15.0%と低い状況であり、女性研究者・技術者を増やすためにはまず理系分野に女子大学生を増やすことが必要です。

では、なぜ日本では諸外国と比べて理系の女子学生が少ないのでしょうか？

まず、成績をみてみましょう。OECD（経済協力開発機構）等が実施した調査によると、日本の女子学生の数学や科学の成績は男子よりは低いですが、国際的にみると諸外国の女子や男子よりも高くなっています。さらにいうと、日本よりも女性研究者の割合が高いノルウェーやアメリカは、女子生徒の成績が良いわけではありません。

また、日本では、小学校での女性の先生の割合は62.2%ですが、中学校で43.3%、高等学校で32.1%と段階が上がるごとに女性の比率が減少しています（平成30年5月時点）。また、教科別にみると理科、数学、社会では男性の先生が多く、国語、英語では女性が多くなっています。

つまり、日本で理系に進む女性が少ないのは、数学や理科の学力不足ではなく、理工系への関心の低さや、身近なロールモデルのとなる女性教員の不足、親の意向等の環境に原因があると言えます。



富田林市

男女共同参画  
リーダー養成講座  
修了生  
インタビュー



大阪府立大学  
ダイバーシティ研究環境研究所 特認准教授  
女性研究者支援センター コーディネーター

たつみ まりこ  
巽 真理子さん

IRIS（表紙参照）の活動をバックアップされている大阪府立大学女性研究者支援センターの巽真理子さんは、なんと富田林市在住です。

しかも、巽さんは、本市が主催した男女共同参画リーダー養成講座（地域や職場でリーダーとして活躍できる人材養成を目的として、1996年より実施。2019年12月現在、のべ133名の修了生がいます）の受講をきっかけに、子育て支援のNPOに携わり、父親が子育てに関わらないことを疑問に感じて、父親研究を始められ、現職に就かれています。

そんな巽真理子さんに、お話を伺いました。

## Q1 現在の巽さんのお仕事について教えてください。

大阪府立大学の女性研究者支援センターで、コーディネーターとして、大学の先生たち（研究者）がワーク・ライフ・バランスを保ちながら仕事や研究ができるようにお手伝いをしています。2010年からのので、もう10年になります。

IRISも、同センターの事業なのですが、私は同センターでやっている事業全般の運営管理が主な仕事です。IRISのイベントを実際に動かすのは、別に担当者がいますが、その人たちがうまく動けるように調整したり、必要に応じて交渉などにも同席しています。新しい話が来た時には、担当者に任せられるように交渉、整理をする現場監督のような役割です。



## Q2 富田林市男女共同参画リーダー養成講座を受講した理由を教えてください。

最初のきっかけは公民館の女性学講座でした。参加理由は、講座内容よりも、ただ単純に「託児が付いていたから」です。

大学卒業後、会社員として働いていましたが、その後のキャリアを考えようと思って、仕事を辞めたタイミングで妊娠し、専業主婦になりました。1人目の子どもが本当に寝ない子で、私が子育てでうつつとしていたときに、市の広報誌で託児付きの講座があることを知りました。子どもを預けられるんだったら…と思って、参加したのがたまたま女性学講座でした。



10 回連続講座だったのですが、「ジェンダー」（社会的・文化的につくられた性差）という考え方や、自分の意見を伝えるコミュニケーションスキルなどを学んで、当時は全然知らなかったことばかりで、毎回、目から鱗でした。その講座を受けている流れで、男女共同参画リーダー養成講座の案内をいただいて、次は自分が支援する側として、ジェンダーについてもっと知りたいと思って、そちらにも参加しました。

この講座がなかったら、今頃どんな生活をしていたのだろうかと思います。今の仕事をしていたのかも、大学院に行っていたのかもわかりません。女性学講座と男女共同参画リーダー養成講座が、私の人生の中では大きな転換点でした。

### Q3 受講してみて感じたこと、印象に残ったことはありますか？

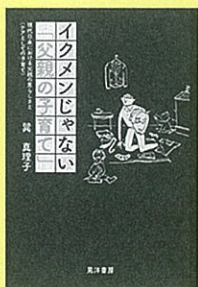
講座の中で、ディベート体験のワークショップをしました。テーマは「職場でタバコを吸ってる人にやめてもらうかどうか」で、私は「禁煙が一番の希望だけど、提案としては、人のいないところで吸ってほしいと言う」と、ちょっと譲歩しました。すると、講師に、「[職場は禁煙にしましょう] って主張してもいいんだよ」と言われたのが印象に残っています。

そこでは、遠慮して、空気を読んで、自分の意見を割引するようなことをしなくても、対等な立場で伝えるという技術を教えてもらいました。上からや下からではなく、対等にやりとりするコミュニケーションの形があるんだと知り、人との付き合い方なども含めて、この講座でいろいろ教えてもらいました。「自分の意見を言ってもいい」という事は、今も自分に言い聞かせています。

この富田林市の講座をきっかけにもっと勉強したくなり、いろいろなところに出かけるようになりました。そのうち、NPO 活動を始めたり、大学院入試を受けたりしたので、夫は驚いていたと思います。

### 巽真理子さんの 著書紹介

#### イクメンじゃない「父親の子育て」 —現代日本における父親の男らしさと くケアとしての子育て—



「男らしさ」と「ケアとしての子育て」という観点から、父親の子育てをメディアや父親へのインタビュー調査から分析し、イクメンとは異なる、父親の子育てへの新しいまなざしを示しています。市立図書館や男女共同参画センターウィズでも貸出しできますので、是非一読ください。（ウィズでの貸出しには団体登録が必要です。詳しくはお問合せください。）

### Q4 日本で、理系分野を選ぶ女性が少ない理由は何だと思われますか？

今の中・高・大学生自身は、女性も文系、男性も理系みたいな壁はあまり感じていないと思います。ただその親世代は、女性も文系、男性も理系の文化で育ってきたので、中学・高校の先生たちを含めて、その価値観から抜け出せていないと感じます。でも、もう一世代ぐらい変わったら、時代の流れで変わっていくと思います。

大学の現場で感じるのは、男性の働き方改革が遅れていることです。最近の男性研究者は、妻もフルタイムで働いているので、自分も子育てに関わって当たり前という感覚で、時間の自由がきく男性研究者の方が、子育てをしているパターンもあります。でも、「子どものお迎えに行くので、会議は出られません」というようなことは、女性よりも男性の方が言い出しにくいようです。上の世代の人たちには、専業主婦の妻がいて、夫が子育てに主体的に関わるイメージがないことも要因だと思います。



大阪府立大学では、女性研究者への支援は整ってきたと思うので、次のステップとして、子育て・家事・介護などの家庭内でのケアを担っている男性研究者にも目を向けた支援が必要だと考えています。

子育てや介護をしながら仕事をする男性が出てくると、研究の中身や発想も変わってきます。よりそれが当たり前になると、研究者は性別に関係なく、ずっと研究が続けていけるようになります。そうすれば、女性も、結婚・出産しても続けられるのかなという心配をせずに、理系分野に入れるのではないかと思います。

（裏面に続く）



Q5

## 女の子の多様な進路選択や、今後の男女共同参画に必要なことは何でしょうか？

私の子どもの高校の文化祭では、女子が男子を引っ張って、出し物をしていました。社会に出た時に、なぜあの女子のリーダーシップが発揮されないのでしょうか。あの女子の芽を潰さないように、「女の子なんだから男の子の後ろにいなさい」といった文化や意識を、ひとつひとつ潰していく必要があると思います。

また、女子に限らず、男子も多様な進路選択をしていくことが大事だと思います。女子学生は、就活の時に結婚、妊娠、出産などのライフイベントを考えている人が多いのですが、男子学生では全然考えていない人もいます。男性も女性も、ライフイベントを含めて生き方を考えていくことがとても大切だと思うのですが、学校ではそういう機会が少ないです。今の大学のキャリア教育では、就活の方法や仕事の内容の話ばかりになってしまって、生き方全体の話になかなかありません。もっと広い視野で、自分にとっての仕事の位置づけなどを考えることを含めて、自分の生き方を考える機会が、学校の授業の中にあるといいと思います。

日本のジェンダー研究は、女性の視点からの女性学が主流です。それはもちろん重要なのですが、男性もジェンダーで縛られているという視点が抜け落ちてしまっています。例えば、働き方の問題では、女性の労働力率はM字カーブ（20歳代でピークに達し、30歳代の出産・育児期に落ち込み、子育てがひと段落した40歳代に再上昇する）なので対策が必要とされていますが、一方で男性には、一家の稼ぎ手として、ずっと家計を支え続けねばならないという呪縛があります。私の授業では、ひとつの事柄を両方の性から考えられるように伝えています。性暴力のように、女性が圧倒的に多く被害を受けている問題もありますが、男女共同参画は、男性の問題でもあるとして、男性も引っ張り込んで一緒に考えていくことが必要だと思っています。

ただ、日本の男性学の課題は、「男性もジェンダーに苦しめられて、かわいそうなんだよ」となっていること

です。これは「男もつらいよ型」といって、男性の共感を得て、男性学を広めるための手法でもあるのですが、女性の側からみると、「社会構造の中で、金銭面も権力も男性に有利になっているのだから、自分たちで何とかしてください」と思ってしまうわけです。

でも私は、子育てや介護をしている男性については、やはり男性だからこそ辛さがあると考えます。なので、両方の辛さを汲み取っていく方が理解も得られやすいし、男女平等にするために女性が下駄を履かされてるというような誤解もなくなると思います。



### 最後に…

#### 巽さんから富田林市へひとこと

男女共同参画リーダー養成講座のような、じっくり学べる場があるのはいいと思うものの、今は共働きの世帯が増えて皆さん忙しくなっているので、市民の側が長期間にわたる連続講座への参加が難しくなっています。

だからこそ、ジェンダーの問題は、学校教育の中で授業に組み込むことが重要です。また、その時には男性を巻き込むしかけづくりが重要だと思います。

富田林市の男女共同参画リーダー養成講座や男女共同参画フォーラムなどは、私のように人生の転換点になる人がいると思うので、ずっと継続してほしいです。

女の人だけじゃなくて、男の人も「男らしさ」に縛られているんだね。  
ジェンダー平等には男性の視点も重要なんだ！



内閣府 男性にとっての男女共同参画ポータルサイト

[http://www.gender.go.jp/policy/men\\_danjo/index.html](http://www.gender.go.jp/policy/men_danjo/index.html)

令和元年度富田林市表彰式で、男女共同参画の推進に、長年にわたりご貢献いただいた男女共同参画フォーラム実行委員やリーダー養成講座修了生8名が自治振興功労賞を受賞されました。

おめでとうございます！



編集

人権政策課 男女共同参画係

発行

富田林市 〒584-8511 富田林市常盤町1-1  
TEL/0721-25-1000

発行日

2019(R1)年12月

下記までご意見ご感想をお寄せください

E-mail:jinken@city.tondabayashi.lg.jp

